

インタビュー 対等なパートナーとしての ASEAN

国際機関 日本アセアンセンター

事務総長補佐 久保田有香さん

日本語スピーチ発表会を共催する国際機関 日本アセアンセンターは、ASEAN 加盟国政府と日本政府との協定によって 1981 年に設立された。相互の貿易、投資、観光、人物交流の促進を目的に活動を行っている。日 ASEAN 関係の強化に向けた取り組みと将来展望について聞いた。

— これまでの取り組みについてご紹介ください。

日本アセアンセンターは、日本と ASEAN 諸国との貿易、投資、観光の分野におけるパートナーシップの強化と人物交流の促進を目的に活動を行っています。これらの分野を縦割りではなく相互に関連付けて推進し相乗効果を上げられるよう、組織内は「調査・政策分析」「キャパシティ・ビルディング(能力開発)」「貿易投資」「観光交流」という4つのクラスター(事業部署)で構成されています。例えば、貿易投資に関する調査・政策分析をキャパシティ・ビルディングとしてのプロジェクトに反映させたりと、組織内の横の連携に力を入れています。

— コロナ禍で事業にも影響が出ていると思いますが、どのような対応を？

人を集めて行うイベントなどの開催は難しくなりました。盛況だった投資セミナーも3月以降は開催できなくなり、全てオンラインに切り替えました。意外なことに、開催頻度も参加者も以前より多くなりそうです。日本と ASEAN



2019年度AJWELP(ブルネイにて)

の女性起業家たちによる交流プログラム(AJWELP)も開催が困難になりました。高い評価をいただいでい

た事業でもあり、流れを絶やさないよう代替策として過去に参加した女性たちを対象にオンラインでイベントを開催する予定です。

観光は最も影響を受けている分野で、観光事業者の仕事そのものが止まっています。ASEANには観光で成り立っている国が多く、経済への影響は計り知れません。それだけに何かやらなければと、観光事業者を対象に現状はどうなっているか、ニーズは何かなどを把握するための調査を行い来年度以降に向けた布石を打っているところです。

こうした中、人の移動が徐々に再開し始めています。当センターでも来日できずにいたフィリピン人職員が先日来日し隔離生活を経て着任しています。うれしいニュースですね。

— 今後、どういった事業を計画していますか？

ポストコロナも見据えて、方向性として考えていることを2つ紹介します。

1つはグローバル・バリュー・チェーン(GVC)の強^{きょうじん}靱化に向けた政策提言を行いたいと考えています。今回のコロナ禍を通して明らかになったのはGVCの脆^{ぜいじゃく}弱性です。どうすれば克服できるかを模索しなければならない時に来ていると痛感しました。そこで当センターでは10月に報告書『ASEANにおける強靱なグローバル・バリュー・チェーン(GVC)とパートナー国との